

地域づくり(復興)

すがるの里・語りと交流プログラム(A:あか牛弁当プラン)

観測史上初の2度の震度7を観測した2016年熊本地震。崩落した旧阿蘇大橋のもと、南阿蘇村の黒川地区は東海大学の学生約800名が住む「学生村」でした。地震後はキャンパスは移転に伴い学生は不在になりましたが、下宿やアパートを営んでいた地域有志で「すがるの里」を設立し、実習時の学生向け弁当作りや地域づくり活動に取り組んでいます。本プログラムは、「すがるの里」手作りの復興弁当を食べ、メンバーと体験談講話や意見交換を通して交流いただきます。



2016年熊本地震で被災した黒川地区



地震で失われた東海大学農学部の学生村の暮らし



震災記録のアーカイブ



すがるの里「あか牛復興弁当」の例



すがるの里メンバーの講話と交流の例



【オプション】展示・プロジェクションマッピング見学

【プログラム内容】

- ・すがるの里手作り「あか牛復興弁当」昼食(40分)
- ・震災記録を遺したアーカイブ展示の見学(10分)
- ・すがるの里メンバーの語り部講話・意見交換(40分)
- ・【オプション】展示・プロジェクションマッピング(30分)

【受入人数】

通年 10~50人(受注型旅行商品)

【場 所】

南阿蘇村・黒川地区 旧長陽西部小学校(南阿蘇村河陽4964)

【所要時間】

90分~120分

【料 金】

2,500円(税込/手作り弁当・お茶代、資料、語り部謝金を含む)

【申込問合せ】

一般社団法人みなみあそ観光局(TEL: 0967-67-2222)